

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1. 工学部・工学研究科

研究 1-1

工学部・工学研究科

I	研究水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、平成 16 年から平成 18 年までの 3 年間における教員一名当たりの論文数は、3.2 件である。研究資金の獲得状況については、過去 4 年間の科学研究費補助金の平均年間採択数は 108 件であり、年々増加している。その他の競争的資金の受入れ状況は、平成 19 年度にグローバル COE プログラム 1 件、その他に平成 19 年度には文部科学省事業 2 件、科学技術振興機構事業 1 件、科学振興調整費事業 2 件、共同研究 183 件があり、活発な研究活動が展開されていることは、優れた成果である。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、21 世紀 COE プログラム、インテリジェントヒューマンセンシングでの成果がグローバル COE プログラム、インテリジェントヒューマンセンシングのフロンティア採択につながって成果を上げており、その他、キラリティを有する生体高分子の合成法の開発、Si 上への無転位 III-V-N 混晶半導体の電氣的性質の研

究は国内外で高い成果を上げている。社会、経済、文化面では、発展型都市エリア産官学連携促進事業、経済産業省の戦略的高度技術開発事業等で成果を上げており、また、電力用鉄塔耐震補強法の開発の研究は社会的に有用性のある研究成果であることなどは、優れた成果である。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 2 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。